

児童発達支援センター 児童発達支援事業 新型コロナウイルス感染症対応マニュアル

児童発達支援センターでは、児童発達支援事業（元気キッズ）・日中一時支援・保育所等訪問支援における新型コロナウイルス感染防止のため、以下の対策を行います。

1 家庭と児童発達支援センターが連携した健康管理

- 感染に不安のある場合（特に免疫力の弱いお子さん）は、主治医の指示に従って、利用を慎重に判断し、必要に応じて利用を控えて頂きますようお願いいたします。
- 家庭での健康観察
 - ・利用前にご家庭での検温と健康観察（同居家族を含む）をお願いします。発熱や咳等の症状が見られる場合は、ご利用を控えてください。
 - ・健康チェック表への必要事項を記入し、必ずご提出ください。
- 児童発達支援センター利用時の健康観察
 - ・指導訓練室に入室する前に健康チェック表を確認し、より丁寧に健康観察を行います。家庭で検温をしていないお子さんについては、サーモメータ（非接触式電子温度計）を用いて体温測定を行います。また、通所利用中にも1回の検温を行います。通常の体温計を用いる場合は、1回使用するごとに消毒を実施します。
 - ・発熱等の症状が認められた場合は、保護者に連絡の上、お迎えをお願いします。保護者と連絡がつかないなどのため帰宅困難な場合は、安全に帰宅できるまでの間、他のお子さんと接触しないよう、別室で待機していただきます。
 - ・保護者が送迎・見学・親子通所のため、児童発達支援センター内に入室する場合は原則1名までとします。（2名以上の場合は玄関でお待ちください。）入室が必要な場合も必要最低限の時間とし、速やかな退室にご協力ください。
 - ・通所利用の様子を見学希望の方は管理者までご相談ください。見学は、感染予防のため1クラス1名までとし、1回あたり1時間以内でお願いします。
- 環境衛生に関しては、必要に応じて嘱託医に相談して指示を仰ぎます。

2 マスク等の着用

- マスクの着用が可能なお子さんはマスクの着用をお願いします。ただし、2歳未満のお子さんについては、令和2年5月25日の日本小児医会の見解に沿って、マスクは使用しないこととします。

5/25日本小児医会は、2歳未満の子どものマスクの着用は、窒息や熱中症の危険があると警告し、やめるべきとの見解を公表。（顔色や表情の変化から体調の異変に気付くのが難しくなる、気管が狭いため呼吸をするのに心臓に負担がかかる。）

- 職員は、飛沫感染防止の観点からマスクを着用します。
 - ・特に近距離での会話の際はマスクもしくはフェイスシールドの着用を徹底します。
 - ・熱中症の防止対策としてお子さんのこまめな水分補給や、エアコン・扇風機の利用等に努め、健康状態を把握します。

3 「3つの密」の回避

- 換気の実施
 - ・密閉を避けるため、可能な限り複数の窓を開放します。天候等により困難な場合は、1時間に1回以上、数分間程度全開にします。
 - ・エアコンの使用時も、室温管理に注意しながら換気を行います。
- 密集場面の回避
 - ・通所利用中は、並び方や座席の配置等を工夫し、お子さん同士はできるだけ2m（最低1m）程度の間隔を空けるよう努めます。また、お子さん同士が対面にならないよう配慮します。

- ・可能な限り戸外での遊びを取り入れます。

○密接場面の回避

- ・通所利用中は、お子さん同士が向き合わないような遊具の配置や、できるだけ2 m（最低1 m）程度距離を離すための声かけ・視覚化（床にマークを付ける等）を工夫します。高唱等はできる限り避け、近距離での会話や接触の際は、飛沫が飛ばないように職員はマスクもしくはフェイスシールドを装着します。

4 手洗いの励行

○流水と石けんによるこまめな手洗いを励行します。

- ・手洗いのタイミング⇒外から室内に入るとき、トイレの後、昼食の前後等。
- ・手を拭くタオルやハンカチ等は共用せず、ペーパータオルを使用します。
- ・手洗いが難しいお子さんについては、必要に応じて手指消毒液を活用します。

5 昼食時

○食事時の注意

- ・昼食の前後に換気を行い、テーブルを消毒します。
- ・飛沫を飛ばさないよう、お子さんができる限り同じ方向を向いて着席します。出席人数が多く、対面での着席となる場合は、飛沫防止用のパーテーションを設置します。
- ・お子さんは食前食後、職員は食事介助と片付け後に必ず流水と石けんで手を洗います。
- ・職員はお子さんと同じ室内で食事を摂らないようにします。

6 午睡

○午睡が必要な場合の配慮

- ・室内の換気と温度に注意し、複数のお子さんが同時に午睡する場合には、できるだけ2 m（最低1 m）程度の間隔を保ち頭の位置が密接にならないよう配慮します。
- ・午睡の際、お子さんはマスクを着用しません。寝かしつける職員はマスクを着用します。
- ・午睡に使用したタオルケットはその都度保護者の方が持ち帰り、洗濯をお願いします。

7 行事

○行事の実施

- ・感染症の流行状況を踏まえながら、行事開催の可否を判断します。
- ・行事を実施する場合においては、3密の状態にならないよう内容を十分に検討し、実施方法を工夫します。

8 環境衛生管理の徹底

○消毒液を使った清掃

- ・多くのお子さんや職員が触れる箇所（ドアノブ、手すり、スイッチ、使用したおもちゃ及び遊具など）は、十分な換気のもと、1日1回以上消毒液（消毒用エタノールや0.05%次亜塩素酸ナトリウム溶液等）を使用して消毒します。
- ・毎日の通所利用終了後、消毒液を用いて室内の床清掃を行います。
- ・スプレーボトル等による0.05%次亜塩素酸ナトリウム溶液の噴霧は、薬剤吸引による人体有害性が認められるため行いません。

9 保育所等訪問支援

- 保育所等訪問支援については、訪問先に入退室する際手指消毒を行う他、訪問先施設の指示に従います。